



今月のことば 平成30年 3月 <No.139>

無条件の安全基地



住職は先月、本願寺福岡教堂で行われたシンポジウムを聞く機会に恵まれました。浄土真宗の僧侶や現役のセクシー女優などがパネラーとなって、恋愛や人間関係に悩む若者にメッセージを届けるという、斬新な企画です。

その中で、「アニメばかり見て恋愛をしようとしないう若者」を心配する声に対して答えられた、住職兼スクールカウンセラーという肩書きを持つ武田正文さんのことばが印象に残っています。

何かがしたいとか、こうしたいという欲求は、その子にとって意味があるはずなんです…。一時的に、現実の誰かを好きになることが不安であって、その疑似体験をすることが二次元(アニメなど)のところで必要な子に対して、「人間はそうあるべきではない」と、「アニメを見るのは即刻中止して誰かを好きになりなさい」と言っても、できることではないんですね。

アニメを見る中で、その子は今、**自分の安全基地**を確立しつつあるわけです。それが確立できてアニメに一通り飽きたら、次の冒険・旅に出ていくので、そういう目で見てあげればいいかな、と思います。

イマドキの関係性フォーラム『恋愛×仏教』 浄土真宗本願寺派子ども縁づくり推進委員会 主催 より



上のような話は、子どもに限ったことではないと感じました。人間には誰も「自分の安全基地」が必要です。それは家族であったり、友人であったり、趣味や仕事の方もおられると思います。心理学ではそれを「依存」や「甘え」と表現しますが、悪い意味でなく、いつでも帰ってきて安心できる場所を指すそうです。人は自分の安全基地があるからこそ、そこからまた新たな冒険や旅に出ることができるのです。

シンポジウムの後半、武田先生は僧侶の立場から、「安全基地」のもう一つの考え方を示してくださいました。

(心理学として) 私が話していた「依存先」とか「安全基地」というのは、実は条件付きなんですね。ここにいれば安全とか、この人の前では大丈夫というようなものの考え方。

仏教の中で、特に浄土真宗の阿弥陀如来という仏さまは、「私たちがどうあれば救う」という条件付けをする仏さまではないわけですね。…私たちが恋愛をできようができまいが、関係性を結べようが結べまいが、**それでも認められる世界がある**というのが浄土真宗の価値観であって、それをベースに持っている、依存先を柔軟に持つことができると思うんです。

「これが無くなれば、すべて無くなる」と思うと、怖くて放せないんです。だけど、**「これが無くなっても、阿弥陀さまがいらっしゃる」**と思うと、「これもあるし、これもあるし」と、ちょっと考え方が柔軟にできるきっかけになるかな、ということを思ったりしています。

「阿弥陀さまが安全基地」と言われても実感できない、と思う方がおられるかもしれません。だからこそ、仏法を聞くこと・聴聞が大切なのです。



慧日山 真光寺